

科目名 Course Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
相談援助の理論と方法 I Social Work Theory and Methods I		1年	前期	別途、時間割参照
単位数	授業の形態	授業の性格		履修上の制限
2単位	講義	選択	(社会福祉士国家試験受験資格取得 必修)	特になし
当該科目の理解を促すために受講しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
社会福祉士受験資格指定科目				
担当者に関する情報				
氏名	研究室の場所	オフィスアワー		電話番号・メールアドレス
大熊信成	福祉棟3F	火・水・木・金の9時から16時（授業 時間を除く）		授業中に指示します
授業の概要				
相談援助における人と環境の相互作用に関する理論について学習し、援助の対象と様々な実践モデルについて理解する。さらに相談援助のプロセスとそれに係る知識と技術について理解を深めていく。				
授業の目標				
①相談援助における人と環境の相互作用に関する理論の知識を修得することをできるようにする。 ②社会福祉援助の対象と様々な実践モデルについて説明できるようにする。 ③相談援助のプロセスとそれに係る知識と技術について理解を深め、説明できるようにする。 ④ソーシャルワーカーとして、総合的・客観的に対応できる能力と洞察力を身につけることができるようにする。 ⑤社会福祉士国家試験に対応できる知識を身に付けることができるようにする。				
授業の方法				
基本的に講義形式で行うが、リアクションペーパーを実施し、グループ討議での振り返りを行う等アクティブラーニングの技法を取り入れる。また必要に応じて小テストを実施するとともに社会福祉国家試験対策も行い、知識の定着を図る。				
学習の成果（学習成果）				
①社会福祉に関する相談援助活動の専門職としての知識および技術を学び、具体的かつ実践的に創造することができる。 ②ソーシャルワーカーとして総合的・客観的に対応できる能力と洞察力を養えることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	ガイダンス 授業の進め方の説明			
第2回目	人間と環境の交互作用			
第3回目	相談援助の対象について			
第4回目	相談援助の原則とは			
第5回目	相談援助の実践モデルとは			
第6回目	相談援助のアプローチについて 治療モデル・生活モデル			

第7回目	相談援助のアプローチについて ストレングスマodel・心理社会的アプローチ
第8回目	相談援助のアプローチについて 機能的アプローチ・問題解決アプローチ
第9回目	相談援助のアプローチについて 課題中心アプローチ・危機介入アプローチ
第10回目	相談援助のアプローチについて 行動変容アプローチ・エンパワメントアプローチ
第11回目	相談援助のアプローチについて バイステックの7つの原則①
第12回目	相談援助のアプローチについて バイステックの7つの原則②
第13回目	相談援助の過程について インテーク・アセスメント・実施 レポート「インテーク面接における留意点」提出は第14回の授業日
第14回目	相談援助の過程について モニタリングと評価・効果測定・アフターケア
第15回目	相談援助における面接技法 相談援助のための面接技術の意義、目的、方法、留意点 授業のまとめ

成績評価の方法と基準

評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度	10%	授業への積極的参加を評価する。個人ワークを自主的に行い、明確な課題意識をもって授業に臨むことができる。
レポート	20%	提示するテーマについて自分の言葉で述べる事ができる。最高評価であるSは意欲的に課題に取り組んでおり、着手すべきテーマの趣旨に沿っていて、学習の成果が十分に示されている。
調査報告書		
小テスト	10%	第8回目の授業において小テストを行う。ほぼすべての授業にリアクションペーパーを行う。このことにより学びの振り返りができる。求められたテーマについて自分の考えを明確にすることが出来る。
試験	60%	論述、選択記述式の試験を行い評価する。論述は根拠(エビデンス)に基づき自分の言葉で述べられていること。
発表内容 (態度含む)		
その他		

教科書と参考図書

『相談援助の理論と方法 I』弘文堂 他 授業中に指示し、資料を配布します。

履修上の留意点・ルール

社会福祉士国家試験受験資格取得の為に必修科目である。目的意識・課題意識を明確にして授業に臨み、口頭で述べたこともきちんとノートにとること。遅刻・早退・私語・居眠りは厳禁。